

科目名	認知心理学特講	担当者	ヤマモト マナ 山本 真菜	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>認知心理学の概念、理論などの基礎的事項の学習とともにとくに対人場面や社会的文脈における認知の問題について、テキストの読解を通じて理解する。本講座では、人の心や行動についての論理的思考・批判的思考、問題発見・解決力の修得により以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を論理的な課題に適切に適応できる能力を身につけるために、認知心理学に関する概念や理論を理解できる力を身につける【A-1:4】</li> <li>2. 論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともにその限界を認識する力、問題解決の方法と手順を立案し、問題を解決できる力を身につけるために、認知心理学における問題の捉え方や考え方を身につけその視点を用いて問題を発見し解決できるようになる【A-3:4】【A-4:4】</li> <li>3. 省察力を身につけるために、認知心理学の見地から自分を認識できるようになる【A-8:4】 【日本大学教育憲章ルーブリックの該当番号】</li> </ol>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>人の心や行動について、論理的思考・批判的思考をすることができ、事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 認知心理学に関する概念や理論を理解することができる (知識)</li> <li>• 認知心理学における問題の捉え方や考え方を身につけ、現実社会での問題について認知心理学的視点に基づいた解決策を提案することができる (態度)</li> <li>• 認知心理学的知見から自分を認識することができる (態度)</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folio を利用したインタラクティブな添削指導を実施する。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>教材を読み、以下のレポート課題についてレポートを作成する。事前に定められた期日までに課題のレポートを提出し、指導コメントに従って加筆修正を行いながら、最終レポートを作成する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>基本教材を熟読し不明な点は参考図書等を利用して理解を深める【25 時間/レポート 1 本】。基本教材の内容を理解した上でレポートを作成する【10 時間/レポート 1 本】。レポート提出、担当者とのやり取り、加筆修正を経て、レポートの最終版を完成させる【10 時間/レポート 1 本】</p>		
スケジュール	<p>前期：基本教材 1 のレポート課題 (1) の草稿は 7 月末、レポート課題 (2) は 8 月末をめぐりに提出するように学生自身が各自の学修計画を立てる。いずれのレポート課題も前期の課題提出期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：基本教材 2 のレポート課題 (1) の草稿は 11 月上旬、レポート課題 (2) は 12 月中旬をめぐりに提出できるように学生自身が各自の学修計画を立てる。いずれのレポート課題も後期の課題提出期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポート課題の内容および目標を理解し、適切な内容を含んでいるかどうかを評価する。
	平常評価	20%	最終稿提出前に草稿を提出し、指導コメントに基づき加筆修正が行われているかどうかを評価する。
履修者への要望	<p>【レポート課題の作成にあたって】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 文章表現は論文の体裁で作成してください。</li> <li>• 自分の考えと引用した考えを区別して書いてください。引用の場合には必ず引用元を記載してください。</li> <li>• 本文に引用した文献名は必ず文末に文献リストを設けて記載してください。</li> <li>• 引用文献の書き方については、日本心理学会の「執筆・投稿の手びき」を参考にしてください。</li> <li>• 教材で理解できない内容があった場合には、参考図書等を基に調べて知識を得てください。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 森敏昭・井上毅・松井孝雄（著） 教材名： 『グラフィック認知心理学』（サイエンス社，2017年）
	認知心理学を俯瞰するための基本的な内容が、具体的な研究結果や図表を多く用いて解説されている。
参考図書	著者名：日本認知心理学会（編） 教材名：『認知心理学ハンドブック』（有斐閣，2013）
履修上のポイント	まず教材全体を一通り読み、不明な点は参考図書等を利用して理解するようにしてください。心理学関連の他科目の基本的内容も学習することが望ましい。
レポート課題 1	第1章から第6章の各章をそれぞれA4サイズ1枚に要約してまとめなさい。 <b>留意点：</b> 過不足なくわかりやすく要約すること。
レポート課題 2	第7章から第12章の各章をそれぞれA4サイズ1枚に要約してまとめなさい。 <b>留意点：</b> 過不足なくわかりやすく要約すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 日本認知心理学会（監修）村田光二（編） 教材名： 『現代の認知心理学 6 社会と感情』（北大路書房，2012年）
	認知心理学のなかでも、とくに対人場面や社会的文脈における認知の問題について取り扱われている。あわせて、感情の問題を社会的認知の視点から検討している。
参考図書	著者名：山本真理子・外山みどり・池上知子・遠藤由美・北村英哉・宮本聡介・小森 公明（編） 教材名：『社会的認知ハンドブック』（北大路書房，2001） 著者名：唐沢穰・池上知子・唐沢かおり・大平英樹（編） 教材名：『社会的認知の心理学』（ナカニシヤ出版，2001） 著者名：S. T. フィスク，S. E. テイラー（著）宮本聡介・唐沢穰・小林知博・原奈津子（編訳） 教材名：『社会的認知研究：脳から文化まで』（北大路書房，2013）
履修上のポイント	まず教材全体を一通り読み、不明な点は参考図書や本書で引用されている文献を利用して理解するようにしてください。認知心理学の視点から、現実社会や日常生活での現象を考えてみてください。
レポート課題 1	本書の第1部（第1章から第6章）のなかから、自分が関心をもった章の一つを選び、要約しなさい。加えて、選択した章に出てくる理論やモデルをひとつ取り上げ、現実社会や日常生活における具体的な現象を挙げながら詳しく説明しなさい（本書で紹介されている例以外を紹介すること）。全体でA4サイズ2枚程度にまとめること。 <b>留意点：</b> 取り上げた理論やモデルが何であるか明確になるように文中で示してください。
レポート課題 2	本書の第2部（第7章から第12章）のなかから、自分が関心をもった章の一つを選び、要約しなさい。加えて、選択した章に出てくる理論やモデルをひとつ取り上げ、現実社会や日常生活における具体的な現象を挙げながら詳しく説明しなさい（本書で紹介されている例以外を紹介すること）。全体でA4サイズ2枚程度にまとめること。 <b>留意点：</b> 取り上げた理論やモデルが何であるか明確になるように文中で示してください。